

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 阿南市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させるための教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 分散型小中一貫教育（チェーンスクール）を活用した活力ある学校教育の推進
4. 研究課題 : ①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化。
②チェーンスクールを生かして小規模校のデメリットを削減する合同授業・合同行事等の在り方及び系統的な教育課程の編成。
③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築。
④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

平成25年度から取り組んできたチェーンスクールの成果と課題を踏まえ、小規模化する学校の教育活動をより活性化させるために、これまで実施してきた合同学習や合同行事等について内容や計画性・系統性の点から検討を行うとともに、小中一貫した教育課程の編成をはじめ、地域の教育資源の活用や、個々の児童生徒の学力の向上等に関する調査研究を行い、地域の教育の一層の充実・活性化を図る。また、本調査研究の取組や成果は、小規模校が学校間ネットワークを構築して学校の活性化を図る方策の普及につながるともに、同様の課題を抱えている他の自治体のモデルとなるものとも考えている。

(2) 調査研究の実施状況（平成27年度）

10月	第1回少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進会議 地域人材の活用（アサギマダラマーケティング遠足）、合同学習
11月	小中一貫教育実践地区交流研修会、小中学校児童生徒交流（読み語り・NIE） 先進地視察（高知県梶原町、奈良県奈良市）、小学校教員出前授業 校区学校保健委員会、合同学習、地域人材の活用（つばきっ子バザー）
12月	半日合同学習、小規模校の活性化に係る研修会 椿支部人権教育研究大会、小学校合同学習、小中合同NIE出前授業 合同学習
1月	先進地視察（岐阜県白川町、奈良県奈良市） 小中合同ふるさと学習、合同学習
2月	第2回少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進会議 先進地視察（兵庫県香美町）、合同学習
3月	少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育全体会議 リーフレット作成・配布

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化。
授業や全校集会、朝の会等において個々の児童生徒が自分の意見や考えを発表する活動に工夫・改善を加え、思考力・判断力・表現力を備えた児童生徒を育成する。また、個々の児童生徒の学習課題及びその解決方法について時間をかけて検討し、個別指導を充実させ学力の向上を図る。

(成果目標1)

・授業等で、個々の児童生徒が自分の意見や考えを発表する活動に工夫・改善を加えた教員の割合：100% (教員へのアンケート)

(達成状況)

○児童生徒が発表する機会を多く設けるようにしている教員の割合

A：よく行っている (26.3%) B：行っている (68.4%) C：あまり行っていない (5.3%)

○児童生徒が工夫した発表ができるような授業支援や授業改善を行っている教師の割合

A：よく行っている (10.5%) B：行っている (73.7%) C：あまり行っていない (15.8%)

具体的に算数では、問題解決への考え方を中心に、グループや学級全体で説明する時間を設定しており、小学校4・5年生でも、徐々に筋道を立てて説明できる児童が増えてきている。

また、児童生徒が発表ができる工夫の一つとして、ホワイトボードを活用している。ホワイトボードにあらかじめ自分の考えをまとめ、それを修正して発表したり、グループ活動などでは、ホワイトボードを用いて意見の交流ができるようにしたりしている。

全校朝会では、教師から児童生徒への一方的な話だけでなく、少人数のメリットを生かして、子どもたちが輪番でスピーチをするなど発表の機会を設定するとともに、スピーチの内容や発表方法について支援するなど表現力の向上に努めることができた。

(成果目標2)

・発表の時、話の組み立てを工夫している児童生徒の割合：80% (教員へのアンケート)

(達成状況)

○発表の時、話し方を工夫している児童生徒の割合

A：よく行っている (5.3%) B：行っている (36.8%) C：あまり行っていない (57.9%)

説明の始まり、聞いている人への言葉がけ、質問への答え方などの対応力が身につけてきている児童生徒もいる。また、発表ボードに書いたことに、言葉を加えて発表したり、指示棒を利用してわかりやすく発表したりする児童生徒が増えてきた。しかし、半数の児童生徒は、自分の考えや感想をを述べるのが精一杯で、話の組み立てを考え、聞き手にわかりやすく伝える工夫をするところまでには至っていない。

(成果目標3)

・学習達成状況把握個人カルテ「学びのあゆみ」が作成され、それが中学校へ引き継がれる児童の割合：100%

(達成状況)

○「学びのあゆみ」が作成され、中学校へ引き継がれる児童の割合

現在、両小学校において「学びのあゆみ」作成中であり、年度末には100%引き継がれる予定である。

②チェンスクールを生かして小規模校のデメリットを削減する合同授業・合同行事等の在り方及び系統的な教育課程の編成。

すでに構築されている学校間ネットワークを生かした取組を進めるとともに、学習内容や指導方法の充実について検討を加え、系統的な教育課程を編成する。

(成果目標1)

・チェンスクールによる合同学習・合同行事の実施回数：8回 (算数、外国語活動・英語、理科、体育、道徳等の合同授業及び人権発表会等の合同行事)

(達成状況)

○チェンスクールによる合同学習・合同行事の実施回数：13回

地域人材の活用による合同行事や合同学習、小中学校教員の乗り入れ授業、地域の行事への小中合同での積極的参加など、チェンスクールを生かした取組を次のとおり行った。

月	日	種別	概要	対象学年	備考
11	4	合同学習	中学校英語教員による、両小学校児童対象の外国語活動の授業を実施	小4～小6	TV
11	5	合同学習	中学校教員によるNIE (newspaper in education)授業を実施	小全 中全	
11	11	合同学習	中学校英語教員による、両小学校児童対象の外国語活動の授業を実施	小4～小6	TV
11	25	合同学習	小学校教員による、中学生対象の書写の授業を実施	中2	
12	5	合同行事	椿支部人権教育研究大会において、各小中学校児童生徒が人権啓発に関わる人権劇等を発表	小全 中全	
12	8	合同学習 (3コマ)	両校児童が中学校に集まり、中学校英語・理科・体育の各教員が両校児童対象に各教科の授業を実施	小5・6	
12	10	合同学習	小学校教員が両校児童対象に算数の授業を実施	小5・7	TV
12	16	合同学習	中学校教員によるNIE (newspaper in education)授業を実施	小全 中全	
1	26	合同行事	地域人材を講師に招き、地域の歴史や文化について学ぶ、小中合同ふるさと学習を実施	小5・6 中1	
2	1	合同行事	小中学校の児童生徒が参加して、中学校の立志式記念講演を実施	小3～6 中全	
2	5	合同学習	中学校数学教員による、両小学校児童対象の算数の授業を実施	小4～小6	TV
2	9	合同学習	中学校英語教員による、小学校児童対象の外国語活動の授業を実施	小4～小6	TV
2	29	合同学習	小学校教員による、中学生対象の社会科の授業を実施	中2	

*備考欄の「TV」は、テレビ会議システムを活用した授業

中学校の教員が小学校児童対象に、教科の専門性を生かして行った授業を受けた6年生児童生徒の感想に、この取り組みの成果がよく表現されている。

<p>3校合同学習が椿町中学校でありました。英語では、中学1年生といっしょにクイズ大会をしました。いつもは下級生といっしょに行う授業で、簡単なものが多かったけれど、中学生や椿小学校の6年生と授業を行ったので、レベルが高い学習ができました。よく考えなければいけない問題が多かったので、楽しかったです。</p>
<p>中学校の先生に英語を教わりました。小学校とちがって先生が二人もいました。内容的にはサラ先生（ALT）が言っていることは、だいたいわかりました。発音のしかたを中学校の先生が何回も教えてくれたので、とてもわかりやすかったです。中学校に行ったらいろいろな言葉を話せるようにしたいです。</p>

このように、小学校児童は中学校教員による授業を受けることで、学習内容に対する興味や関心を深め、中学校進学後の学習にも意欲を持つようになったことがうかがえる。また、日頃は自校において少人数で学習しているが、小中および小中の合同学習を実施することで学習に深まりが出てくることを、児童自らが実感している。

このような教員相互の専門性を生かした乗り入れ授業は、小学校から中学校への形でも実施した。次に記すのは、小学校の教員が中学校で行った書写の授業を受けた中学生の感想である。

小学校のときにいた先生に授業を教わったので懐かしかったです。行書の書き方が難しかったけれど、ていねいに教えてくれたのでがんばりました。知っている先生だったので、質問もしやすかったです。

この他にも、テレビ会議システムを使った児童生徒交流を、毎週木曜日の授業開始前の15分程度実施している。

(成果目標2)

・系統的な教育課程の作成

(達成状況)

○作成

各教科については学習指導要領により、小中一貫した教育の視点から指導内容が規定されているため、合同行事・合同学習を中心に小中のつながりや実施時期がわかる教育課程(教育活動計画)を作成した。作成したものはリーフレットに掲載し児童生徒・保護者に配付することにより、開かれた学校づくりに努めている。

③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築。学校施設・教材・教具の共有，人材の相互有効活用，ICTの活用等による教育活動の活性化について調査研究を行う。

(成果目標1)

・人材の相互有効活用の実施回数：4回(中学校の英語，音楽等の教員による出前授業)

(達成状況)

○人材の相互有効活用の実施回数：10回(12コマ)

(成果目標2)

・ICTを活用した合同学習・合同行事等の実施回数：4回(外国語活動等の授業，児童会・生徒会の交流等)

(達成状況)

○ICTを活用した合同学習・合同行事等の実施回数：授業は5回，児童会・生徒会の交流等は9回

TV会議システムを活用した合同学習については，研究課題②の項で述べたように，外国語活動及び算数で5回実施した。このTV会議システムを活用することによって得られる時間的および経済的な節約効果は非常に大きい。

まず時間的な面においては，たとえば椿町中学校において合同学習を行う場合，準備をふくめて椿小学校からは約20分，椿泊小学校からは約30分の移動時間が必要である。したがって，1時間の合同学習を実施するためには，各小学校とも実質は往復それぞれ1単位時間，計2単位時間のロスが生じるケースが出てくる。

今年度10月以降のTV会議システムを利用した5回の合同学習を，仮に児童の移動を伴う合同授業の形で行ったとすると，計8単位時間を移動とその準備に使ったことになり，年間に換算すると相当のロスタイムが生じ，教育課程の完全実施の上からも問題となる。また，このロスタイムは引率する教員がそれぞれの学校において行うべき校務への大きな支障となり，TV会議システムの導入はこうした問題点を解消するものとなっている。

また，経済的な面からもTV会議システムの活用は有効である。椿泊小学校から椿町中学校や椿小学校への移動を例にとると，教員1名につき1回の移動に300円の出張旅費が必要である。これを今年度の合同学習の引率や合同会議や打ち合わせのための出張旅費の節約額を試算してみると，

合同学習8回の引率教員延べ人数13人 × 出張旅費300円 = 3,900円

合同学習打ち合わせに伴う出張延べ人数8人 × 出張旅費300円 = 2,400円となり，合同学習関連だけで6,300円が節約できたことになる。これは10月以降のみの金額であり，年間に換算すると配当旅費の少ない小規模校の運営にとっては非常に大きな金額になる。

また，以前は椿泊小学校から椿町中学校や椿小学校に合同行事等で児童を引率するとき，タクシーを利用することも多かった。ところが，へき地に立地する椿泊小学校にタクシーをよぶ場合貸走料とは別に配車料が必要となり，1台あたり1万円を超える出費となっていた。こうした出費が抑えられることも，TV会議システムを活用する大きな利点となっている。

④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり。
人的・物的・環境的な地域の教育資源を一層活用することにより、学校教育活動のさらなる活性化及び開かれた学校づくりを図る。

(成果目標1)

- ・地域人材を活用した取組の回数：6回
(達成状況)

○地域人材を活用した取組の回数：3回

本年度は、10月からの取組であったため、目標の回数を達成することができなかった。
本地域には、渡りをする蝶アサギマダラの中継地点があり、地域にはアサギマダラの生態について調査研究している愛好家の方がいる。本年度も10月に総合的な学習の時間の学習の一貫として、地域の愛好家の方に指導していただきながら、アサギマダラのマーキング遠足を行い、環境学習に取り組んだ。

11月には、地域の食生活改善推進協議会の方より、自分たちで栽培したサツマイモやもち米を使っての調理実習を含めた食育指導をしていただいた。以前にはふるさと学習の一つとして本地域で水揚げされる魚を使って、児童生徒が地元の漁師さんに指導していただいて魚の調理体験をしたことがある。今後この体験学習も継続し、食を通して地域の教育資源の活用を図っていききたい。

1月には、小中合同ふるさと学習「地域の歴史を知ろう」において、地域の歴史に詳しい地域の方を講師に向かえ、児童生徒が地域の歴史や文化、伝統などについて話を聞いた。講師の話を通して自分たちが暮らしている地域について深く知るとともに、地域の方のふるさとに対する思いや願いを知ることで、ふるさとを愛しふるさとを誇りに思う心の育成につながっていることを感じている。

(2) 成果物等

○リーフレット「ふるさとに誇りを持ち笑顔と元気があふれる椿っ子の育成～分散型小中一貫教育(チェーンスクール)を活用して～」

(3) 今後の取組予定

平成27年度については、10月後半からの事業開始ということもあり非常に短期間での取組となったが、成果目標についてはおおむね達成することができた。平成28年度は年度当初からの事業開始を想定し、平成27年度の取組を継続・発展させながら成果目標の数値をより高く設定し、取組を進めていきたい。

また、平成27年度の課題として、小規模校のメリットを生かすという視点からの教育内容の工夫改善、地域とともにある学校教育の推進といった点がまだ十分ではないということについて推進会議でも指摘を受けたため、こうした点を改善しながらより活力ある学校教育の推進に取り組んでいく予定である。成果目標達成の判断材料としては引き続き定期テスト等の学力考査、児童生徒の活動の様子、活動後の感想、関係者へのアンケート等の結果を活用する。

なお、平成28年度についてもリーフレットを作成し、調査研究成果の普及に努める。